



令和5年度
新時代に対応した高等学校改革推進事業
(普通科改革支援事業)
「学際領域学科」

研究実施報告書

三重県立上野高等学校

取組概要

文部科学省
新時代に対応した高等学校改革推進事業
中間報告 2023

三重県立上野高等学校

新しい時代のために

「Society5.0」と言われる時代が来ていることを多くの人が実感していると思います。例えば、2023年度は「AIを語る段階を卒業し、フル活用の1年になる」と言われるなど、AIをはじめとする新技術は急速に活用されている一方、今まで誰も考えなかった様々な課題が生まれています。

飛躍的な技術の進歩に2045年と言われていた、人工知能(AI)が人間の知能を超える転換点(シンギュラリティ・技術的特異点)が早くなったという研究者もいます。

また、国連総会で採択されたSDGs(持続可能な開発目標:Sustainable Development Goals)の達成目標期限も2030年と目前です。

新時代に対応した高等学校改革推進事業

このような新しい時代にあっては高等学校の教育のあり方も変化しなくてはなりません。特に全高校生の約6割が学ぶ普通科では、新時代に対応した学習プログラムが必要と言われていています。そこで文部科学省では「新時代に対応した高等学校改革推進事業(普通科改革支援事業)」を実施し、三重県では唯一、上野高等学校が実施校として選ばれました。

令和5年度の取組

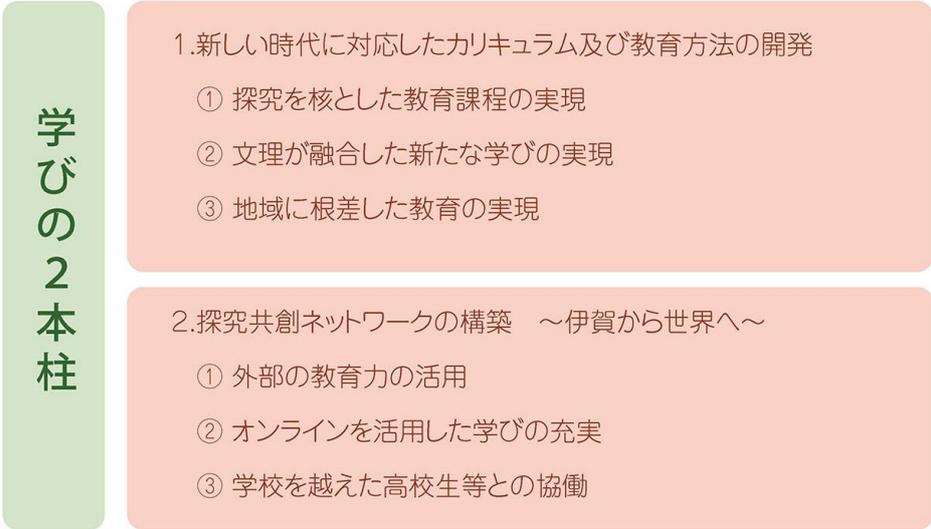
令和5年度は、昨年度の反省を受け、新入生から2年間をとおして、パイロットプロジェクトに参加する生徒を募り、1年間で30回の授業を行いました。当初は1クラス相当数の40人を定員としていましたが、応募者が多く強い希望のあった44名と担当2名、普通科改革コーディネーターでさまざまな取り組みを進めました。

文部科学省 新時代に対応した高等学校改革推進事業

令和3年1月の中央教育審議会答申において提言された普通教育を主とする学科の弾力化(普通科改革)や教科等横断的な学習の推進による資質・能力の育成を実現するため、令和4年度から設置が可能となる学際領域学科及び地域社会学科の設置を予定している学校の取組を推進するとともに、遠隔・オンライン教育等を活用した新たな教育方法を用いたカリキュラム開発等のモデル事業を実施する。加えて、新学科における学びや教科等横断的な学びを実現するためには、地域、大学、国際機関等との連携協力、調整が必要であり、その役割を担う「コーディネーター」について、その育成や活用を支援するための全国プラットフォームを構築する。

■ 推進計画

- 長期的目標 伊賀を想い、世界を見据え、社会の課題に挑戦し続ける人材の育成
- 中期的目標 「社会の形成者としての自覚と責任を持ち、他者と協働しながら、解決に向けて主体的に行動する力」の育成
- R4年度目標 「国内外を学びの場とした探究プログラムの開発」を柱とした教育課程の編成



■ 実施体制イメージ図



※未来の地球学校:株式会社steAmが主体となって運営する国内外の教育機関をつなぐSTEAMネットワーク

上高Feel度Shot

上高Feel度Shotは、「探究の必要性和意義を知って欲しい」という想いから、企画された授業です。この授業の目標は以下の3つです。

①気づきの感性を上げる ②新たな発見を体験する ③クリティカルに協働する
 昨年度の反省を受け、事前学習を充実させました。また、一人一人の発表を記録し、外部からの意見もいただきたいと考え、それぞれの発表を動画にしました。その発表はYoutubeにアップし、伊賀市役所の方々にみていただき評価をもらいました。

STEP 1

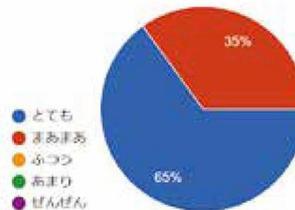
1

5月17日
5月24日

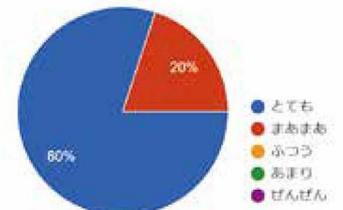
プレゼンの基礎について

Feel度Shotがプレゼンテーションの練習であることを意識し、プレゼンの基礎を学び、昨年度先輩たちが行ったFeel度Shotの発表をクリティカルにみました。

「プレゼンテーション」について
考えが深まりましたか？



「上高Feel度Shot」を頑張ってみようという気持ちになりましたか？



STEP 2

2

5月31日

フィールドワーク

上高周辺500m以内で、もっと調べてみたいと思った「モノ」「風景」「場所」などをスマートフォン等で撮影しました。昨年は約1時間30分の時間を取りましたが、今年は45分でフィールドワークを行いました。



STEP 3

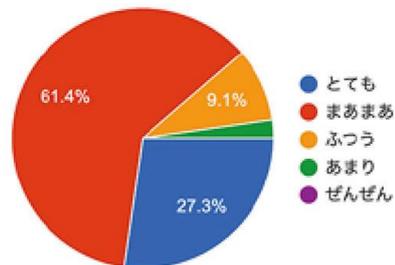
3

6月 4日
8月30日
9月 6日

スライド作成

惹きつけるプレゼンについてのレクチャーを受けた後、構成を考え、スライドを作成しました。作成には、Googleスライドやパワーポイント、そしてWEBアプリのCanva!など、自分にあったもので作りました。初めてプレゼン用のアプリを使う人もいましたが、インパクトのあるスライドを教え合いながら作成していきました。

いいプレゼンを作る手順がわかりましたか？



STEP 4

4

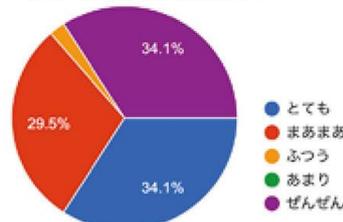
9月20日
9月27日
10月16日
10月17日

発表

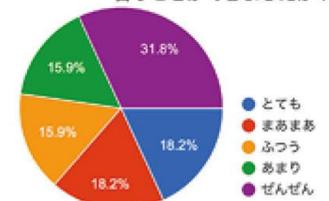
「班での発表」→「講座での発表」→「講座での発表の振り返り」→「班での発表」という過程を経て、発表を練り直していきました。

また、この活動には大学生メンターの支援を得ました。

楽しく発表できましたか？



他の人の発表に積極的に質問や意見を言うことができましたか？



STEP

5

10月18日

動画の作成

全員の発表を多くの人に見てもらうために、それぞれが発表を動画にしました。生徒所有のクロームブックでの動画撮影は初めてでしたが、それぞれが工夫をし、教え合いながら作成をすることができました。作成した動画はYoutubeにアップしました。



STEP

6

3月13日

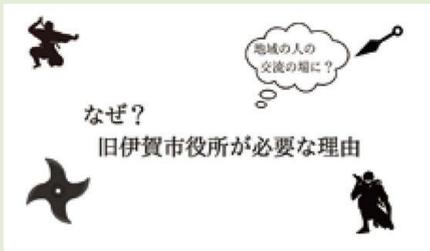
伊賀市役所の方々からの評価

YouTubelにアップした動画を伊賀市役所の職員の方に見ていただき、「いいね」をつけてもらうことにしました。最も「いいね」をもらったのは「なぜ?旧伊賀市役所が必要な理由」でした。視聴回数などの観点で評価し、優秀な作品については校長先生から表彰をしてもらいました。



表彰された作品の一部

高評価回数

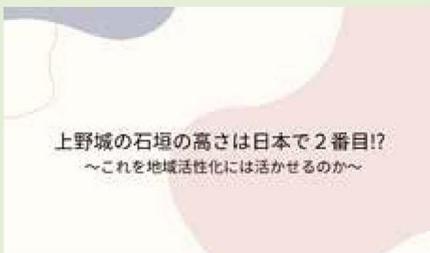


なぜ?旧伊賀市役所が必要な理由

高インプレッション



西大手門跡



上野城の石垣の高さは日本で2番目!?



明日誰かに話したくなる旧小田小学校の歴史



このマンホール、何?



小さな忍者から見えた街づくり

新しい時代に対応したカリキュラム及び教育方法の開発 2

Online 国際交流

令和4・5年度の目標である「国内外を学びの場とした探究プログラムの開発」と学びの2本柱である「新しい時代に対応したカリキュラム及び教育方法の開発」を受け、本年度もオンライン国際交流を行いました。

本年度の交流相手は本年度の推計で人口が最大となったインドの高校生とフィリピンの高校生を含む若者と、SDGsの[Goal 1]No Poverty「貧困をなくそう」について意見交流を行いました。

STEP 1

1

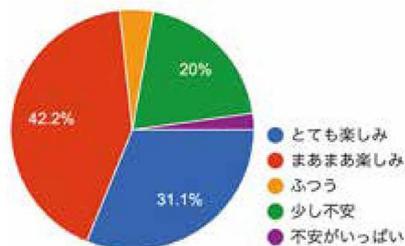
6月23日

6月28日

事前学習

- 1 オンライン国際交流の流れ
- 2 印象に残る自己紹介の練習
- 3 交流のテーマである"No Poverty"に関するレクチャーとスライド作成
- 4 班内でスライドを共有（一つの班は5人で9つの班を構成）
- 5 特定のスライドに各自が作成したスライドを貼り付ける
- 6 「私たちができること、考えること」を話し合い、スライドを追加
- 7 まとめたスライドでリハーサル

国際交流に向けての今の気持ちは？



STEP 2

2

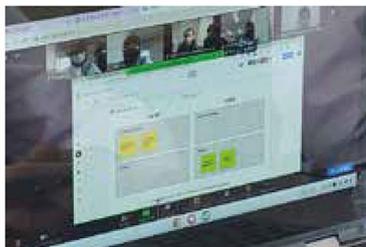
7月11日

オンラインディスカッションI

インドの高校生と自国の貧困についてプレゼン

授業は全てZOOMをとおして行いました。サポートをしてくれる(株)With The Worldのコーディネーターのレクチャーを受け、サポーターと共にインドの高校生と対面。各班は日本人生徒4～5名に対してインドの高校生は2～3名。しかし、会話はインドの高校生がリードしていました。

それでも、事前に準備したプレゼンは練習の甲斐あって、なんとかインドのメンバーに伝わったようでした。



STEP 3

3

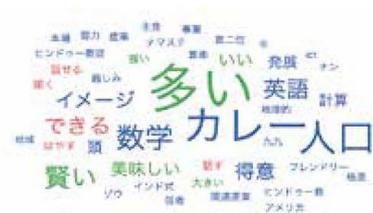
7月13日

オンラインディスカッションII

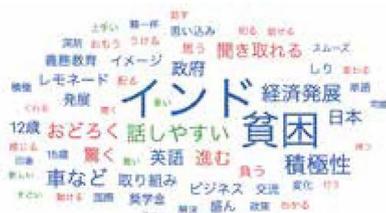
「貧困問題を解決するためにできること」

2回目の交流では、「貧困という課題に対して、自分たち若者はどんなことができるだろうか」というテーマで話し合いをしました。難しいテーマで、インドの生徒の積極性に押されながらも、相対的貧困・絶対的貧困というキーワードでなんとか自分の考えを伝えるよう努力していました。

インドに対する意識の変化(生徒の感想をデータとしたテキストマイニング)



=STEP1=



=STEP3終了後=

STEP

4

8月18日

オンライン社会見学 in フィリピン

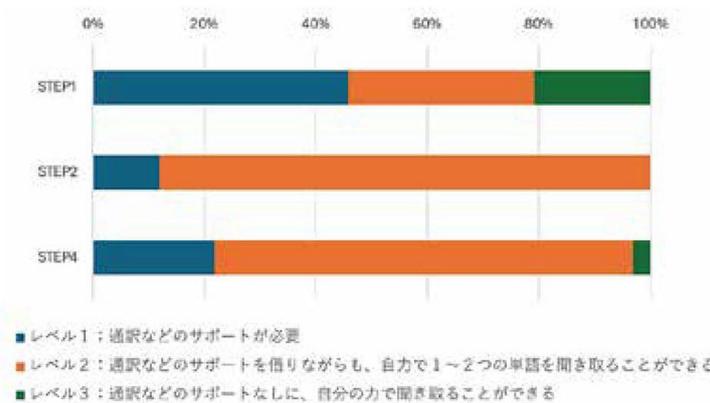
フィリピンのゴミ山やダウンタウンをオンラインで社会見学

フィリピン中部ビサヤ諸島にあるイロイロ市の高校生と青年の案内で、ゴミ山に暮らす高校生の家やダウンタウンをオンラインで訪問し、その後、フィリピンの高校生と感想の交換を行いました。イロイロ市は観光地としても有名ですが、巨大なゴミ山がある街でもあります。ここに暮らす同世代の若者との意見交換で世界的な課題について考えました。



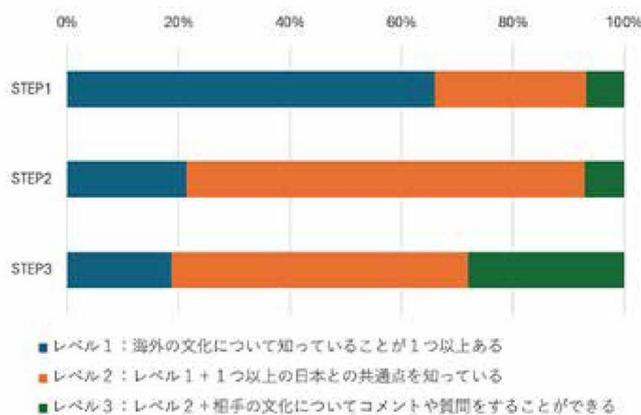
DATA

リスニング力についての自己評価



リスニング力については、交流前には自信のない生徒が多かったのですが、実際に体験することで、「なんとかなる」と自信ができたようです。一方、英語力に自信があった生徒の自己評価が下がっています。これは、インドの高校生の英語が今まで練習してきた英語とアクセントや発音が大きく違ったことによるものと思われます。アメリカ人以外の英語に接する良い機会になりました。

異文化(インド)に対する意識について



人口が最大になったと推計されたインドですが、生徒にとってはたいへん遠い存在であったようです。実際に、クロームブックの画面に相手の高校生が映った時、少なからず戸惑いの声が聞こえました。指導者に「ほんとうに高校生なんですか?」と言う質問をした生徒もいました。ただ、授業で聞く英語とは少し違う英語に慣れ、会話を重ねるうちにインドの文化や社会について興味を抱くようになったようです。

大学生メンター

生徒の探究活動を振り返る機会を得るため支援をお願いしました

皇學館大学教育学部の全面的な支援を受けて、大学生メンター11人に生徒の探究活動の支援をしてもらいました。

6月27日、県教育委員会事務局高校教育課の指導主事と普通科改革コーディネーターが大学を訪問し、大学の先生方とともにメンターとの打ち合わせを行い、ネット会議システムを使っての生徒へのメンタリングを依頼しました。

その後、上高Feel度Shotの発表や探究テーマ決定に参加してもらいました。

STEP

1

Feel度Shot班内発表 学びの発表会練習

生徒は44人、11の班に分かれて活動しています。1つの班に1名のメンターがついてもらいました。メンターは皇學館大学教育学部の4年生。探究活動が計画されている時間に授業のない学生に参加してもらっています。メンタリングは全てオンライン会議システム(ZOOM)で行ってもらいました。指導者ではなくメンターなので、「なぜ?」等を繰り返してもらいました。

9月20日

10月17日

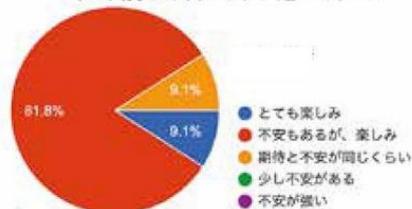
10月25日

11月 8日



メンターへのアンケート

メンターとして生徒に接する、
今の気持ちは次のどれに近いですか?



7

STEP

2

探究テーマの設定

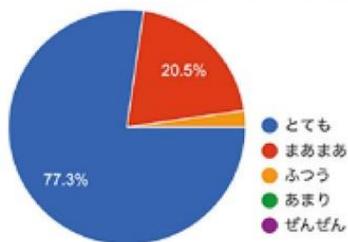
Feel度Shotを受けて、2年次から始める探究活動のテーマ設定とその計画についてメンターから意見をもらいました。大学4年生で卒業論文を仕上げたメンターから実践的なアドバイスをもらうことができました。具体的には課題の内容が近いグループにわけ、グループでの発表にメンターが入ってくれました。

2月14日

2月21日

生徒へのアンケート

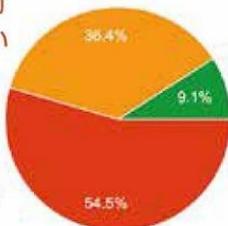
メンターのアドバイスは役立ちましたか?



メンターへのアンケート

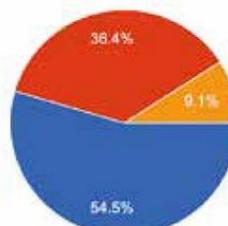
メンターとして参加したことにより「生徒の学習活動」に良い効果を与えることができましたか?

- 自分の予想を超えて貢献できた
- 自分の予想通りの貢献ができた
- 自分の予想は下回るが貢献ができた
- あまり貢献はできなかった



メンターとして参加したことにより「今後の皆さんの仕事等」に効果があったと思いますか?

- とても良い経験だった
- 良い経験だった
- ふつう
- それほど良い経験であったとは思わない
- 良い経験になったとは言えない



新しい時代に対応したカリキュラム及び教育方法の開発 4

グローバル企業見学

グローバルに活躍するために必要な資質について考えました

8月8日、この授業の目的である、「グローバルに考える」ために伊賀市にあるグローバル企業、DMG森精機伊賀事業所を見学しました。世界でも有数の工作機械メーカーであるDMG森精機伊賀事業所に、生徒と校長先生、三重県教育委員会事務局の指導主事、担当教員2名とコーディネーターで見学に行きました。

STEP

1

8月 8日

世界で働く意味と、そのためにこれから身につけるべきことを考えました。

全体でお話を聞いた後、帽子とゴーグルをつけ、3班に分かれてショールームと工場内を見学。5軸複合加工機によるデモンストレーションや、金属3Dプリンターの製作例、ロボットの活躍に未来の一端を感じることができました。

その後、4班に分かれ、外国人や海外勤務経験がある従業員の方から、グローバルに考えることや、外国人とのコミュニケーション、これからの企業の在り方などを小グループでお話を聞かせてもらいました。



新しい時代に対応したカリキュラム及び教育方法の開発 5

ゲストティーチャー

学校の教員だけでなく大学の先生や企業の方から話を聞きました

たくさんの専門家や研究者のお話を聞くことで、知見を広める機会を作りました。直接教室でお話を聞くだけでなく、ネット会議システムを使ったり、作っていただいた動画と質問などのやり取りなど、様々な手法を使って学びました。

STEP

1

5月17日
10月17日
3月14日

さまざまな先生にさまざまな方法で授業をしていただきました。



三重大学 高等教育デザイン・推進機構
宮下 伊吉 先生

「探究へのとびら」というサイトと動画を作成していただき、近未来について、そしてその世界で生きていくために「探究」する姿勢が大切であることを教えていただきました。



京都大学 教育学部
久富 望 先生

「探究」の意味について、「Inquiry」と「Quest」というキーワードを元に、勉強の仕方も含め、わかりやすくお話していただきました。久富先生は本事業の運営指導委員です。



UCCジャパン株式会社
サステナビリティ経営推進本部
山本 真菜 さん

2年次からの「探究活動」はSDGsに向けてのものになります。企業のSDGsへの取組をコーヒーをテーマにお話していただきました。美味しいコーヒーの楽しみ方も教えていただきました。

支援体制

運営指導委員会

委員	株式会社ナベル代表取締役社長	永井 規夫
	I G S株式会社 執行役員 パートナー・ソリューション1部 部長	矢部 一成
	京都大学教育学研究科助教	久富 望
	上野高等学校同窓会副会長	土肥 稔治
	三重県教育委員会事務局 高校教育課長	山北 正也
関係者	上野高等学校長	杉阪 英則
	上野高等学校教頭	辻井 伸文
	上野高等学校教諭(事業担当者)	荒井 将友
	三重県教育委員会事務局 高校教育課指導主事	竹田 誠
	三重県教育委員会事務局 高校教育課 普通科改革コーディネーター	中山 隆之

9

探究人材育成コンソーシアムみえ

参加者	DMG森精機株式会社 アカデミー部長	小林 龍一
	株式会社steAm代表	中島さち子
	株式会社steAm	鈴鹿 剛
	グーグル合同会社 Google for Education 営業統括本部 部長	杉浦 剛
	立命館大学スポーツ健康科学部長	長積 仁
	三重大学高等教育デザイン・推進機構准教授	宮下 伊吉
	皇學館大学教育学部准教授	野々垣明子
	伊賀市企画振興部地域創生課主幹	植田 充芳
	名張市役所総合企画政策室総合企画係長	西口 英司
	三重県観光部観光総務課長	森 将和
	三重県教育委員会事務局 高校教育課指導主事	竹田 誠
	三重県教育委員会事務局 高校教育課指導主事	中野 知恵

(敬称を省略させていただきました)

活動のリフレクション

毎回の活動ごとに、活動を振り返り、何を学習したのか、どんな力を身につけることができたかを記録してもらいました。アンケートとして答えるだけでなく、文字で記録することを繰り返していきました。

5月17日 テーマ:プレゼンテーションとは?

上高Feel度Shotはプレゼンの練習でもあることを話し、その上で「プレゼンとは何か?」をTEDカンファレンスの動画を見て考えました。



プレゼンテーションに対する考えは深まりましたか?



今日の活動で気づいたこと(一部)

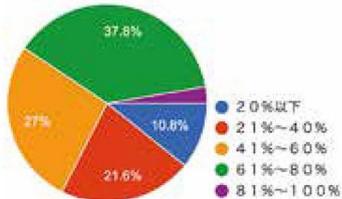
- ・自分の意見を持っていないとただ調べたことを言うだけになってしまう。
- ・プレゼンテーションは自分の意見を人に伝えるために行うというのがわかった。
- ・プレゼンテーションでいちばん大切なのは、自分の意見を考え発表すること、人を惹きつける力って大事なんだなあと思った。
- ・自分の意見をしっかりと持ちながら、自分らしくプレゼンテーションすることが大切だと気づいた。
- ・プレゼンテーションというのは、調べたことを発表するのではなく、自分の意見をみんなに知ってもらい反応してもらうためだということに気づいた。

9月20日 テーマ:作成したFeel度Shotを班内で発表

班内での発表の1回目。自分の作ったスライドを使いながら、班のメンバーとメンターに発表しました。



自分の発表の完成度はどの程度だと思いますか?



今日の活動で気づいたこと(一部)

- ・自分が目につけないような場所をみんな紹介していて色々なものを色々な視点から見て考えることが大切と改めてわかった。
- ・自分の満足行くような発表はできなかったけど他の人のプレゼンを聞いて自分の改善点などを見つけることができて良かった。楽しむことができてよかった。
- ・表情がとても大事だとあらためて思いました。メンターの方も表情豊かで発表の時も安心しました。
- ・同じ町について発表しているはずなのにみんな全然違うことで自分の近くにあるはずなのに私は気づいていなかったことかもあってすごく学びを深められる時間でした。

3月14日 テーマ:1年間の活動の振り返る

最終回では、1年間に学んだことや身についた力について振り返りました。



1年間の探究Sの活動で身についたと思う力を1つ記入してください。(一部)

- ・物事について深く考える力。初めは考えることをめんどくさいと思っていたけど、今ではちゃんと考えようと思えるようになった。
- ・文章作成力
- ・物事を色々な方面から見る力
- ・質問する力が上がったと思います
- ・ファシリテーターを務めて積極的に参加すること
- ・自分の思いと仲間の思いを両方取り入れる力が身に付いたと思います。たくさんしんどい思いをしましたが、最終的には発表できる形に仕上げるのができて良かったです。
- ・自分の中で物事を考える力、すなわち思考力や想像する力がより探究に対して成長したのではと感じました。また人の前での発表、班での話し合いなど取り組めたと思います。



三重県立上野高等学校

〒518-0873 三重県伊賀市上野丸之内107
mail:arai.masatomo@mie-c.ed.jp (担当:荒井)

取組詳細

取組の詳細については、下記よりご覧ください。

※ 授業内容や生徒の様子、アンケート結果等を掲載しています。

[探究活動 S \(google.com\)](#)

成果概要図

